早稲田大学
ソーシャルイノベーション・アクセラレートプログラム
について

実施責任者：社会科学部　学部長　早田　宰

早稲田大学「ソーシャルイノベーション・アクセラレートプログラム」が実現すること

【人材育成】

- 社会科学部へのインテンシブ教育先行導入による能動的学習機会の創出・拡大
- 教養→問題解決までやる高度なイシューベースの「学際教育」の実現
- 自分の学びをデザインする、学びのエコシステムの創出

高度な知を集約しグローバルイシューに取組み社会変革を共創する
ソーシャルイノベーターの輩出

【教学マネジメント改革】

- インテンシブ教育の教育成果・学修成果の効果検証・評価サイクルの導入
- 学際教育ルーブリックの開発・モデル化
- 全学、他大学へのインテンシブ教育モデルの普及

早稲田大学の強みである国際性、感知力、普及力による
全学波及、他大学波及の実現

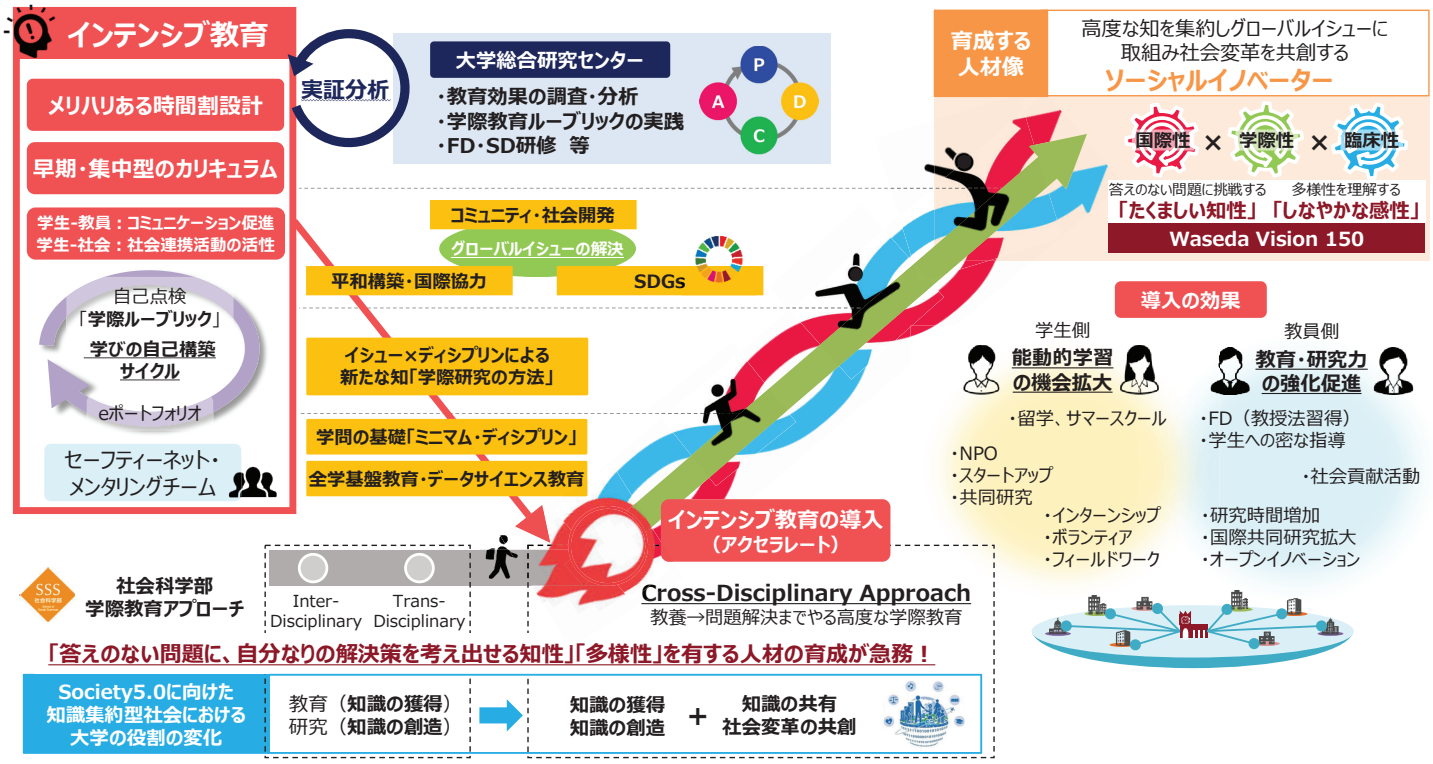
【④事業全体計画概要】 ソーシャルイノベーション・アクセラレートプログラム

教育システム改革

◆クォーター制の実質化（実装の拡大・効果創出）
・能動的学習の機会拡大（学生側）
・教育・研究力の強化促進（教員側）
◆教育効果検証におけるIRの活用促進
・学びの自己構築サイクルの加速化、学際教育効果の可視化

全学波及・学外波及

◆質保証システム
・インテンシブ教育の効果検証の方法や教学に関するデータ分析体制
◆高度な学際教育モデル
・課題解決型授業への「高度化移行」、専門分野特化授業への「学際化導入」
・学際ルーブリック、メンター制度　等



新規性・先進性・普及策

2 ・本事業計画の新規性（貴学のこれまでの取組とどのような点で違いがあるのか）、先進性（我が国の高等教育全体にとってどのような点で先進性を有するか）、及び他大学への普及策（貴学の取組をどのように他大学に普及させるのか）について具体的に説明してください。

新規性

◆イシューベースの学際教育
・学部カリキュラムにクォーター制の本格導入（従来のクォーター化は全学基盤教育科目を中心として推進）
・教養→問題解決までやる高度なイシューベース（実社会の本質的な課題）の「学際教育」の早期定着・集中化、学修成果の可視化

先進性

◆学びのエコシステムの構築
・学生が自ら学びをデザインし、それを支える仕組み（メンター、社会連携コーディネーター等の配置）
・世界的にも先行事例の少ない「学際教育ルーブリック」の開発
・総合大学でのインテンシブ教育、学際教育の教育成果・学修成果の効果検証

他大学への普及策

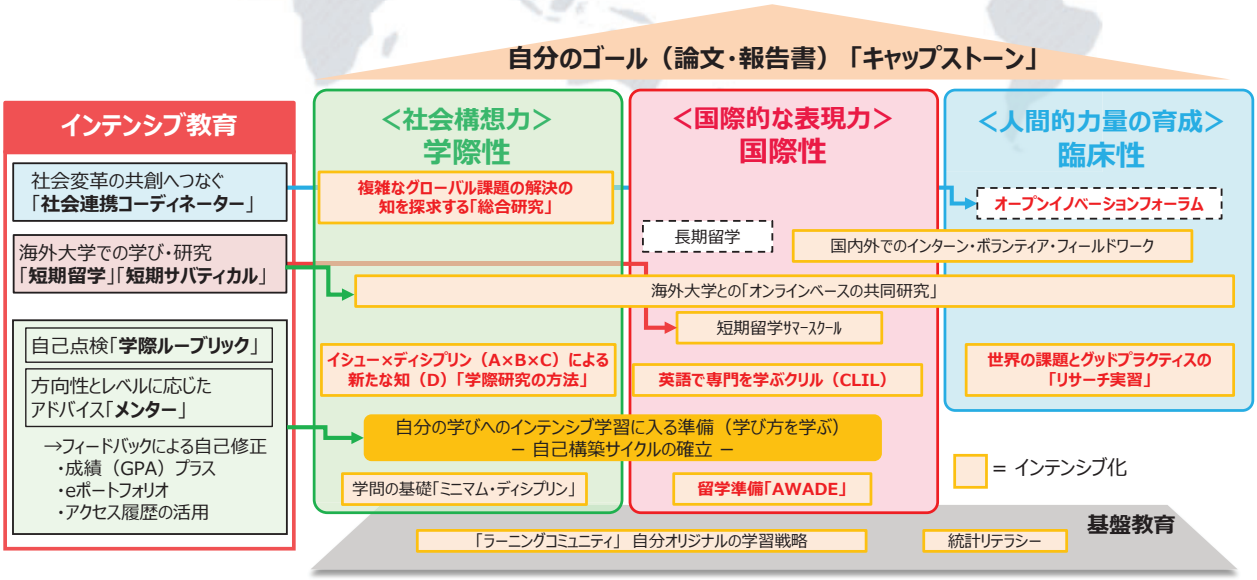
◆早稲田大学の強み＝国際性、感知力、普及力
・本学部生約40,000人のスケールメリットを活かした実証データの検証
・学会やシンポジウム等の場で学内外へ公開し、他大学へ普及
・学術研究懇談会（RU11）や日本私立大学連盟における情報発信　等

ソーシャルイノベーション・アクセラレートプログラムのカリキュラム構成（例）

学際性
・多領域の知を結集した**問題解決能力**と社会を切り拓く**社会構想力**を身につける

国際性
・多様な国、言語、価値、利害関係を背景とする主体とコミュニケーションできる国際的な**表現力**と**協働力**を身につける

臨床性
・理論と実践、思考と行動を往還しながら、矛盾や葛藤を自らが乗り越える主体的な**自己修正力**を身につける



新しいインテンシブ教育の形態

ハッカソン

１日～数日間の集中ワークショップ。デザイン、プログラミング系分野で始まり、**創造的アイデア**を重視する分野や企業に広がった。
５つのステップを踏む
❶創造的な考え方をグループでかき立てる。❷顧客に共感し、個々人の考えを深く理解する。❸良い問いを立てる。❹有望なアイデアのプロトタイプを作成し、テストする。❺最高のアイデアを育て、（ハッカソン終了後に）拡大する。

https://news.vumc.org/2019/09/30/boot-camp-teaches-advanced-practice-providers-critical-care-skills/

ブートキャンプ

１週間～数ケ月間の集中ワークショップ。兵役訓練で始まり、医療・福祉など**スキル**を重視するワーカーや公共機関に広がった。
❶一流講師陣による周到な準備。❷参加者は事前登録、事前配布資料の習得、❸最新知識の集中レクチャー、❹夜は人間関係の構築、❺ワークショップや複数のスキルラボの開設に少人数で異分野グループで参加しトレーニング、❻成果や今後の挑戦課題等を共有して終了・解散。

https://hbr.org/2016/04/hackathons-arent-just-for-coders

学びのエコシステム

◆学生が自ら学びをデザインし、それを支える「学びのエコシステム」

4月	5月	6月	7月	8月	9月
春クォーター（インテンシブ）		夏クォーター		夏休み	

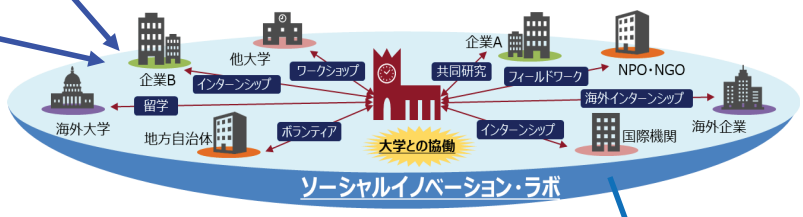
（時間割）

	月	火	水	木	金	土
1	（通学）	（通学）	社会連携活動	（通学）		社会連携活動
2	●	★		●		
3	▼	★		▼	（通学）	
4	（通学）			（通学）		
5	◎	（通学）		◎	■	
6	△			△	■	
7				★	（通学）	

＜インテンシブ教育導入の効果＞

学生
- ・留学、サマースクール
- ・フィールドワーク
- ・インターンシップ
- ・ボランティア活動　等

教員
- ・研究時間の増加
- ・国際共同研究、共同指導の拡大
- ・社会貢献活動
- ・ルーブリックに基づく学生個別指導　等



学び方を学ぶ
自分オリジナルの学習戦略の構築

学 生

メンター
（メンタリングチーム）

- ・学生が自らデザインする学びの構築支援
- ・セーフティーネット、ケア
- ・進路アドバイス　等

II

早稲田ポータルオフィス
- ・学修支援、セーフティーネットでの連携

学びのエコシステム
きめこまかく指導するサイクルをつくり、学生の理解、学習意欲を高める。

教 員

社会連携
コーディネーター

- ・ソーシャルイノベーション・ラボとの橋渡し
- ・企業、自治体、NPO等との連携
- ・社会連携教育のアドバイス

・履修済み学生、卒業生がメンター、社会連携コーディネーターとして参画する
循環型サポートシステム

「ソーシャルイノベーションラボ」の主な機能・役割

複雑な問題への対処に焦点を当てる

場所をベースとしたアプローチをとる

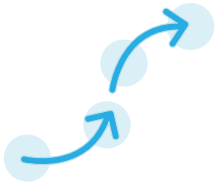
多様なアクターによる一貫した
アクションを可能にする

グループをベースとした
社会に開かれた探究

ネットワーク化されたガバナンス
アプローチをサポートする

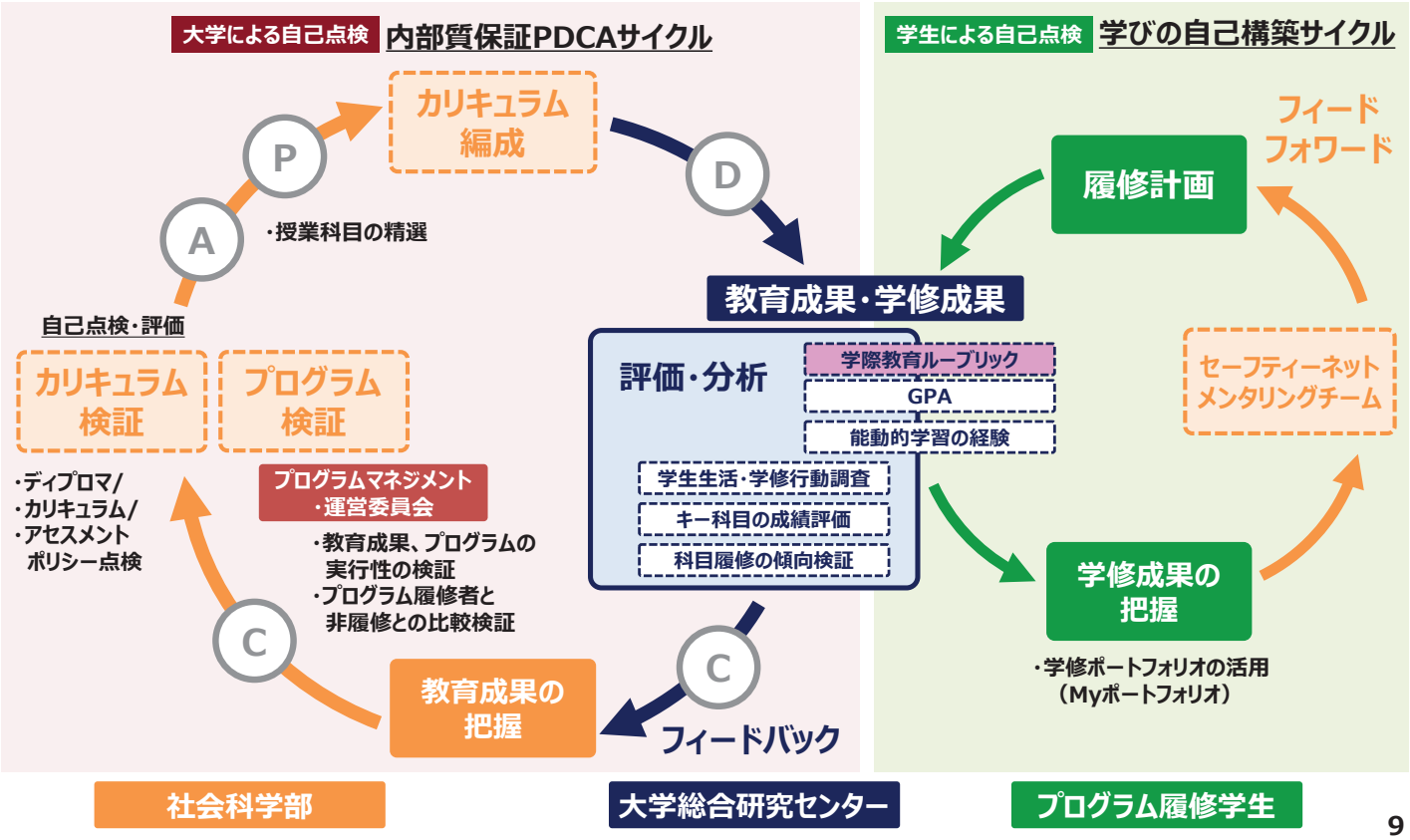
対話を促進する

トランジションマネジメント（移行管理）
アプローチを採用する

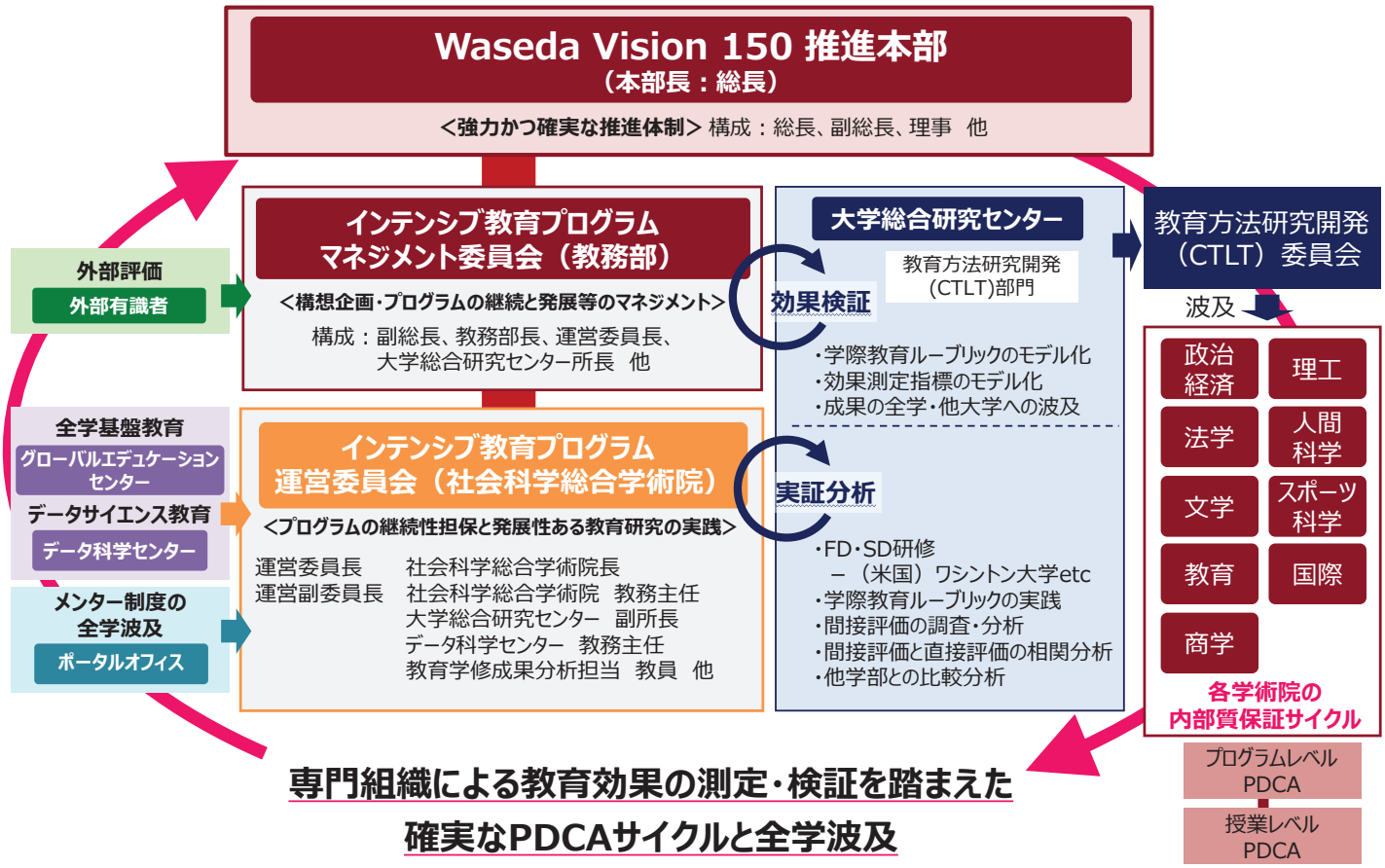


プログラムの効果検証・評価サイクルの全体像

◆インテンシブ教育導入の効果を実証データに基づき多角的に検証



実施体制および全学波及



専門組織による教育効果の測定・検証を踏まえた
確実なPDCAサイクルと全学波及

採択後の気づき&問い

・**【目的】**現代社会に必要な知識が急速に増加。学生の生活、学習がフラグメンテーションしている現状。「ゾーン」に入るため必要。

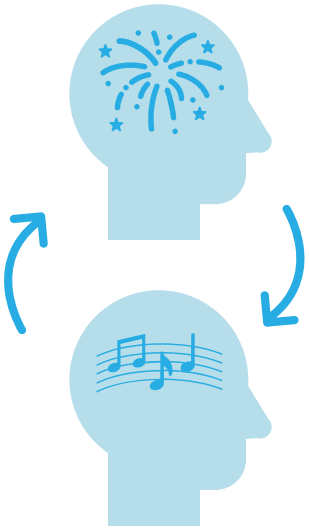
・**【インテンシブな学びの場・カリキュラム】**「ラボ」「ハッカソン」「ブートキャンプ」などが有効であるが、いつ実施？スタッフは誰が管理？

・**【学びの高度化】**ディシプリンをベースとした垂直的学習（熟達知）とイシューをベースとした学際的な水平的学習（越境知）の組み合わせが必要。初年次、教養の入門の学際、３年次、応用研究を深めるための高度な学際とは（データサイエンスなどスキル補充？）。

・**【科目の合併・削減】**複数科目を合併して減らす必要。セットのサイズ感は？（「社会科学総合研究」「コンセントレーション」「コース」（4＞16＞36単位？）。

・**【学生評価】**教員による学生評価と学生による自己評価をどう組み合わせるか。学生それぞれの学習戦略にあった独自の学びのデザインやその達成度を誰がどう評価するか（コース主任＋メンター？）

「ゾーン」に入った状態



「フロー」の状態